



札幌医科大学学術機関リポジトリ *ikor*

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	アメリカ近代における看護教育の成立過程に関する史的考察 - 19世紀後半（創始期）の動向に焦点をあてて -
Author(s)	佐藤, 公美子;奥宮, 暁子;城丸, 瑞恵
Citation	札幌保健科学雑誌,第 1 号:55-61
Issue Date	2012 年
DOI	10.15114/sjhs.1.55
Doc URL	http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/5386
Type	Journal Article
Additional Information	
File Information	n2186621X155.pdf

- ・コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等が有します。
- ・利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
- ・著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

原 著

アメリカ近代における看護教育の成立過程に関する史的考察 - 19世紀後半（創始期）の動向に焦点をあてて -

佐藤公美子、奥宮暁子、城丸瑞恵
札幌医科大学保健医療学部看護学科

本稿の目的はわが国の看護教育に影響を及ぼしたアメリカ看護の創始期、19世紀後半に注目しアメリカ看護教育の成立過程を明らかにすることである。研究方法は、“Annual Report U.S. Bureau of Education : U. S. Bureau of Education; 1871-1898”を主な史料とする歴史的史料分析である。次のような結果を得た。1860年にナイチンゲール看護教育システムが世界に波及しアメリカでは1873年に最初の看護学校が開設された。その後、アメリカ北大西洋地区から北中部地区、南大西洋地区へと拡がり、1898年にはほぼ全州で看護教育が開始された。しかし、それらの看護学校は必ずしもナイチンゲールシステムを継承したものでなくアメリカ独自のシステムによる看護教育であった。“Annual Report U.S. Bureau of Education”における「看護教育」に関する記述は1872年まで何もなかったが、1873年に始めて「特殊教育学校（孤児や女工、盲目者を対象とする学校）」の報告項目内に記載されていた。1891年からは医師・歯科医師・薬剤師教育の章に看護教育欄が設けられ、看護が医療の一員として漸く位置づけられたことが明らかになった。

キーワード：歴史的史料分析、看護教育、近代看護創始、アメリカ

Historical Research on the Process of the Formation of Modern Nursing Education in the United States

— It focus on the trend in the late 19th century —

Kumiko SATO, Akiko OKUMIYA, Mizue SHIROMARU

School of Health Sciences, Sapporo Medical University

This study focused on the early years of the creation of American nursing, which had a strong influence on nursing education in Japan. This report will look at the process by which American nursing education was established in the late 19th century. It is historical research, using the "Annual Report: U.S. Bureau of Education (1871-1898)" as the main source of information.

We found that the Nightingale method of nursing spread throughout the world from 1860, and the first Training School in the U.S. was established in 1873. Nursing education grew from then on, concentrated mainly in the North Atlantic Ocean region of the U.S. Then, it spread from the U.S. North Atlantic Ocean region to the North Central and the South Atlantic Ocean region, and nursing education was started in all states in 1898. However, The American-style nursing didn't inherit the every method of nursing from Nightingale. There was no description about "nursing education" in Annual Report U.S. Bureau of Education until 1872. It was begun in 1873 and described in the report of a "special education school". The report of nursing education was described under the chapter of a doctor, dentist, and a pharmacist from 1891.

Key words : Historical Research, Nursing Education, Formation of Modern Nursing, United States

Sapporo J. Health Sci. 1:55-61(2012)

1. 研究背景

アメリカ近代看護の創始とは、1860年にイギリスのナイチンゲール (Florence Nightingale) がセント・トーマス病院医学校にナイチンゲール看護学校 (St. Tomas' Hospital; The Florence Nightingale School of Nursing and Midwifery) を開校し、ナイチンゲールシステム (Nightingale System) による看護教育の開始をいう。この学校で学んだ修了生によってナイチンゲールの教えは世界 (アメリカ、日本、スコットランド、中国など) へ波及していった¹⁾。とりわけ、アメリカへの波及はナイチンゲールシステムによる看護教育を受けた、アメリカ登録看護婦第一号のリンダ・リチャーズ (Linda Richards) や、看護学修士号を取得した最初の看護婦であるイザベル・スチュアート (Isabel Maitland Stewart) により伝えられた。さらに、1900年、世界で初めての4年制看護教育がコロンビア大学教育学部看護教育学科 (Department of Nursing Education, Teachers College, Columbia University) に創設され、看護の歴史上、大きな転機となった。また、看護系大学院 (Master Course) も世界に先駆けて開設されるなど、アメリカは看護教育の高等化に向けて世界諸国を牽引していった。

一方、わが国の看護の近代化は1885年、日本で最初の看護婦教育機関である「有志共立東京病院看護婦養成所」が開設されたことに始まる²⁾。この養成所の教育者アメリカ人看護婦メリー・リード (Mary E. Read) もやはりナイチンゲールシステムによる教育を受けていた。次いで、1886年にはリチャーズが指導にあたった「京都看護婦学校」と、ナイチンゲール看護学校卒業生であるイギリス人看護婦アグネス・ベッチ (Agnes Vetch) が指導した「桜井女学校附属看護婦養成所」の2校が開校し、わが国においても近代看護が開始された³⁾⁻⁴⁾。アメリカと同様に、ナイチンゲールシステムによる教育を受けた卒業生によって、看護の近代化は19世紀に日本国内へと広がっていった。しかし、20世紀になると第一次世界大戦及び第二次世界大戦が勃発し、日本もこれら戦争に参戦することとなった。漸く、看護婦教育機関において看護婦養成が開始された矢先に日本国家の要求に呼応して入学次の低年齢化、養成期間の短縮化が図られ、ナイチンゲールシステムによる教育は継続されなかった。1945年、わが国は第二次世界大戦の敗戦を機に連合軍最高司令官総司令部 (General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers、以下GHQ/SCAP) による占領改革が開始された。わが国の看護は、GHQ/SCAPにより戦前のナイチンゲールシステムからアメリカシステムへと刷新する政策が次々と展開された。その看護政策を指導したのはGHQ/SCAPのスタッフであるアメリカ人看護婦であった。

しかしながら、戦後わが国の看護に影響を与えたアメリカの看護婦が受けた教育や思想については未だ十分な探究

がなされていない。近代においてナイチンゲールの看護システムがリチャーズら先駆者により導入されたが、導入後にどのようにアメリカに波及したのか、さらに、その過程でアメリカ看護教育がどのように成立していったのが明らかではない。

アメリカ近代看護の創始期について探究するために、アメリカでは看護教育がどのように位置づけられていたのかを実証する必要がある。それにはアメリカの教育体系の発展を示す史料であるアメリカ教育局年報を用いて実証していく。これまでアメリカにおける看護教育の歴史を教育分野からの視座で捉えた研究はなく、筆者らの独創的な研究視点と考える。

わが国の看護の将来を考察する時、その歴史を紐解いて先陣の歩んできた道を振り返ってみることは決して無駄ではない。過去の出来事を知ることによって、現在の看護教育の発展とその意味を知ることが可能であり、さらには将来のあるべき姿を予想することにもなると思うからである。だが、その歴史の理解は正しくなければならない。過去の正しい理解には、その時代に在った資料を正しく解釈することが最も必要であり、歴史的に価値のある一次史料にあたる研究の意義はここにある。

2. 研究目的

本稿は、わが国の看護教育に影響を及ぼしたアメリカ看護の創始期、19世紀後半に注目しアメリカ看護教育の成立過程を明らかにすることを目的とする。

3. 研究方法

- 1) 分析方法は、歴史的史料分析とする。
- 2) 主な分析史料を以下に示す。
 - (1) アメリカ国立公文書館所蔵の一次史料“Annual Report U.S. Bureau of Education U. S. Bureau of Education”から1868 - 1898年を対象とする。本史料は、アメリカの連邦内務省 (Department of Interior) のうち教育部 (Bureau of Education) が1867年から学校や大学数、その教育内容を州ごとにまとめて報告したものであり、アメリカ全州の教育状況を詳細に把握することができるものである。

本史料は次のような経緯で作成された。アメリカでは、「教育は基本的に州政府の権限事項」とされ衆国憲法修正第10条に定められている。しかし、南北戦争を機に連邦政府は教育分野への関与をするようになった。1867年にアンドリュー・ジョンソン (Andrew Johnson) 大統領が連邦教育省 (U.S. Department of Education) を設置した。しかし、州は連邦教育省が州の教育に介入することを懸念し設置を反対した。そのため1868年に教育省から教育部に格下げを図り連邦内務省の傘下に置き、学

校統計などを所管することになった。それまでは州の教育部に報告していた内容を、1868年以降は学校数・教育内容を州別にまとめて連邦内務省教育部へ上告することになった⁵⁾。

- (2) 本研究で扱う史料は、アメリカ国立公文書館 (National Archives and Records Administration) や国立国会図書館 (National Diet Library) での使用許可の手続きを経ている。
- (3) 本文中では、「史料」と「資料」を区別して記載する。「史料」とは、歴史的な文書をさす。つまり、NDLやNARA所蔵の英文献である。「資料」とは、二次資料を示し、例えば編纂物や回想録、書籍はこれにあたる。
- (4) 本研究では、対象時期を次のように区分する。イギリスやアメリカの記述における「近代」とは市民革命 (1776-) からロシア革命 (-1918) までの時代、18世紀後半から20世紀前半をさす。さらに「近代看護」とはナイチンゲール看護学校が開校した時期 (1860-) である19世紀後半から20世紀前半をいう。よって、近代看護の「創始期」は19世紀後半 (1860-1899) をさすこととする。また、日本での「近代」とは、西欧と少し時期が遅れた明治維新 (1868-) から第二次世界大戦終戦(1945)までをさし、GHQ/SCAPによる占領期 (1945-1952) を経て、現代とする。

4. アメリカ近代における看護教育の先駆者、リンダ・リチャーズの足跡

アメリカ看護教育の近代化の一人であるリチャーズが看護教育を受けたマサチューセッツ州のニューイングランド婦人小児病院 (New England Hospital for Women and Children) は、1862年に女性医師であるマリエ・ザクシェフスカ (Marie Zakrzewska) が創設した⁶⁾。この病院は、女性患者に対して有能な女性医師により医療を提供することや、女子医学生に臨床実習の場を提供することを目的に掲げていた。マサチューセッツ州では、万人に無償かつ非宗教的教育を提供するという教育者ホレース・マン (Horace Mann) の影響が大きく、特にニューイングランド地方では17世紀後半から学校制度が作られ、住民自治の教育が行われていた⁷⁾。このような地区の事情もあってか、ザクシェフスカ医師は1862年から10年間にわたり、看護婦志願者に対して病院内に6カ月の訓練コースを設け、看護婦を養成していた。しかし、この訓練は看護教育プログラムに則ったものではなく、ベッドサイドでの経験によるものであった。1872年、この病院内に看護学校が開校され、女性医師の一人であるスザン・ディモック (Susan Dimock) が責任者となった。彼女はザクシェフスカ医師から女性の高等教育や専門職への機会均等を受け継ぎ、アメリカで初めての系統的な看護教育プログラムを構成し看護教育を開始したと言われている。この学校の入学資格は21歳から31

歳までとあり、養成期間は1年間、講義と看護実習で構成され、履修科目は7科目であった⁸⁾⁻⁹⁾。それは、「家庭看護における看護婦の立場と作法」「生理学」、「病人の食物」、「外科看護」、「産褥看護」、「感染予防の看護」、「一般看護」である。看護実習は、内科、外科、産科のベッドサイドで行われた。第一期入学生は5名おり、そのうち修了したのは先に述べたリチャーズ唯一人であった。卒業後、リチャーズは1873年にニューヨーク州ベルビュー病院へ夜間監督員として着任した。彼女は1874年にボストン看護学校 (Boston Training School for Nurses) の校長として赴任し、1877年にイギリスへ渡り、セント・トーマス病院キングスカレッジ (St. Thomas' Hospital ; King's College) やエディンバラ王立貧窮病院 (The Royal Infirmary Edinburgh) で再度看護訓練を受け帰国した。1878年にはボストン市立病院 (Boston City Hospital) の総婦長を務めた後、付属の看護学校 (Boston City Hospital Training School for Nurses) の監督者となった¹⁰⁾。

5. ナイチンゲールシステムを基にしたアメリカシステムへの展開

ナイチンゲールが看護学校を開校した後、アメリカでは1872年9月開校のニューイングランド婦人小児病院内の看護学校、1873年5月開校のベルビュー病院看護学校 (Bellevue Hospital Training School)、同年10月開校のコネチカット看護学校 (Connecticut Training School for Nurses)、同年11月開校のボストン市民病院看護学校が次々と設立された¹¹⁾。これらはほぼ同時期に開校しリチャーズが多く関与した。これら看護学校の「看護者のための看護者による教育の成立」という主要概念は共通であった。

ナイチンゲールが指導した「ナイチンゲールシステム」とは、権威を持った寮母 (マトロン) や住み込み見習い看護婦の制度化、病棟看護婦による教育、衛生学の講義時間を増やすことなどが特徴である。さらに、ナイチンゲールはイギリス独特の寄付によって設立し維持される病院によって看護学校を展開したのである。他方、アメリカは、寮母は存在せず、その代わりに病院長、看護学校長、看護教育者、病院理事会や病院職員の一員などで構成する委員会があった。また、看護生徒は住み込みではなく、病院の看護婦寮に住む場合もあるし、寮の外 (自宅や学校の寮) に住むことも許された。また、衛生学科目に限らず広く学科目が設定されていた。ナイチンゲールシステムにはなかった病棟婦長という役職も置かれ、彼女は看護生徒の教育と指導、病院管理に関して責任を持っていた。以上述べたように、ナイチンゲールシステムはアメリカにはその原型のまま浸透はしなかった。それは、一つには、ナイチンゲールシステムでの看護生徒は寮母 (マトロン) が管理する寄宿舍で生活するなど、看護以外の業務から解放されていなかった。これはアメリカの歴史の中で獲得した自由主義、個人

主義社会には受け入れられないことであった。二つ目には、看護学校と看護婦の位置づけの違いである。ナイチンゲールは看護学校と病院を切り離し、さらに看護婦は看護婦であり医師ではないという思想であったが、この考えもアメリカとは相反した。ナイチンゲールシステムの継承者でもあるリチャーズは1878年ボストン市立病院の看護学校監督者 (Superintendent of the training school) として新たな学校を築く時、自らの教育観を元に看護教育モデルを提唱した。それは、後にリチャーズモデルとも言われたが、看護学校と看護婦を病院管理の組織の中に組み込むこと、つまり看護婦を医師の下位スタッフとして位置づけたことである。医師と看護婦は別の職種ではあるが同じ医療専門職チームであることを、連邦内務省教育部にも認めさせた。さらに、医師と看護婦の職務を分けたことが、将来、看護の専門性をより高めることにも繋がったと思われる。

6. アメリカ教育局年報にみる各州看護学校の変遷

アメリカの教育状況を州ごとに記したアメリカ教育年報 (Annual Report U.S. Bureau of Education : 1868 - 1898、

U.S. Bureau of Education) によると (表1参照)、北大西洋地区の多くの州は18世紀後半の「アメリカ創成期の13州」でもある。そのため、看護教育が発展したのも北大西洋 (North Atlantic) 地区が最も早く、次いで北中部 (North Central)、南大西洋 (South Atlantic) であった (図1参照)。1879年当時の看護学校数はアメリカ国内11校と報告されている。南北戦争後、中流階級女性のための教育が盛んになり女性用の専門職をつくらうとする動きが見られ、専門職に就くための学校や女子単科大学、男女共学制の大学の開校が相次いだ。南北戦争に女性が看護婦として参加した前例があり専門的な知識を持った看護職の必要性を社会が認識していたこともあって、1870年代に看護学校が開校されてからは次々と増設されていった。また、この時期には看護婦の地位向上を願って職能団体が次々と設立された。最初は1893年のアメリカ看護職能団体であり、次に1894年のアメリカ看護学校監督者協会 (後のアメリカ看護教育連盟; National League of Nursing Education、以下NLNE) であった。NLNEの初代会長はリチャーズが務め、活動方針は看護学校入学規準の向上、共通のカリキュラム基準作成、卒後教育に関することである。さらに、1896年にアメリカ・カナダ看護婦同窓連盟 (後のアメリカ看護婦協会;

表1: アメリカ地区・各州における看護養成機関数の推移

State/Year	1871	1872	1873	1874	1875	1876	1877	1878	1879	1880	1881	1882	1883	1884	1885	1886	1887	1888	1889	1890	1891	1892	1893	1894	1895	1896	1897	1898		
North Atlantic	1	2	5	6	6	6	9	9	9	12	14	18	22	26	23	25	26	25	26	26	28	33	40	77	107	170	207			
Maine																								1	2	2	3			
New Hampshire																								1	3	5	8			
Vermont																								1	1	1	1			
Massachusetts		1	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	6	14	23	36	46		
Rhode Island														1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4	
Connecticut			1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	4	6	8		
New York	1	1	2	3	3	3	4	4	4	6	8	10	10	12	10	11	13	13	12	12	14	15	19	33	39	61	67			
New Jersey												1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	5	8	15	18		
Pennsylvania							1	1	1	2	2	1	3	5	3	3	3	2	4	4	4	7	9	19	26	40	53			
South Atlantic							1	1	1	1	1	2	3	2	2	1	1	1	1	1	1	2	4	11	15	24	31			
Delaware																									2	2				
Maryland														1										1	3	4	5	9		
Washington D.C.							1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	5	4	5	5			
Virginia																								2	2	5	7			
West Virginia																									1	1	1			
North Carolina																									1	1	1			
South Carolina													1	1	1	1									2	2	2			
Georgia																								1	1	1	2	3		
Florida																										1	1			
South Central																								1	1	5	9	12		
Kentucky																										3	3	4		
Tennessee																										1	1	3		
Alabama																										1	1			
Louisiana																										3	3			
Texas																								1	1	1	1	1		
North Central			1	1	1	1	1	1	1	2	2	3	6	6	4	5	5	6	7	6	6	11	20	39	46	80	108			
Ohio												1											1	1	5	5	11	17		
Indiana													1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	7		
Illinois										1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8	12	14	25	33		
Michigan													1	1	1	1	2	3	2	2	2	2	2	6	5	9	14			
Wisconsin																														
Minnesota													1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	3	3	6	10	11	13		
Iowa																								1	2	2	6	8		
Missouri			1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	5	6	8	8		
Kansas																										3	4			
Western																														
Colorado																										1	2	4		
Utah																										1	1			
Washington																											1			
Oregon																										1	1	3	3	
California																										1	2	2	9	10
U.S.A.	1	2	5	7	7	7	11	11	11	15	17	23	31	34	29	31	33	33	35	34	36	47	66	131	177	298	377			

出典: "Statistics of training schools for nurses for 1871-1898; from replies to inquiries by the United States Bureau of Education"より筆者ら作成



図 1：アメリカ全土の地区・州別地図

出典：http://www.tt.em-net.ne.jp/~taihaku/geography/map/map.html筆者一部加筆

American Nurses' Association、以下ANA) が設立され、初代会長にはイザベル・ハンプトン (Isabel Hampton Robb) が就任した。ANAでは、教育の向上、労働条件の改善が主な活動方針であった。これら二つの団体の運動を契機に、1893年は47校に過ぎなかった看護学校が1895年には131校へ、1896年には177校へ、1898年には377校が開校した。看護学校数が増え、修了した者が看護学校監督者や病棟婦長になってアメリカ国内に拡がり看護活動を行った。そして、1900年にはANAの機関誌として“ The America Journal of Nursing ” が創刊され、近代看護教育の創始を象徴した。

7. アメリカ教育局年報に見る看護学校の教育内容

アメリカ教育局年報において、「看護教育」に関する記述は1872年まで何もなかった。1873年から“ Training of Nurses ”あるいは“ Training School for Nurses ”という小項目でまとめられていたが、特殊教育学校 (孤児や女工、盲目者を対象とする学校) の報告項目内にあった。その当時、看護教育は「特殊教育」として扱われていたことが明らかになった。“ Training of Nurses ”の記載内容は州ごとに様々であるが、概ね入学条件や修業年限、生徒数、学校の様子や卒業生の動向が記されていた。1879年からは、“ Statistics of education for the year 1879 ”の目次に“ training school of nurses ”があげられ、2ページ分の報告が掲載された。さらに、アメリカ全土の看護養成機関の動向が初めて一覧表となって表された。その表には1879年当時の11校が学校名、場所、校長名や開校以来の総生徒と卒業生数などがあげられ、アメリカ全土の看護生徒と看護婦の数が記された (表2参照)。年々増加する看護養成機関の推移を把握するために一覧表が新たに作成されたと思われる。また、1891年の報告書からは医師・歯科医師・薬剤師の教育欄に“ School of nurse training ”が設けられ、看護学校が

「医療系学問」として位置づけられたことがわかる。

表2を見ると、アメリカ近代看護の幕開けとして歴史的な年 (1873年) から1879年の6年間で1,027名が入学し、596名が看護婦になったことが見て取れる。しかし、約半数しか修了できなかったことや入学条件には基礎的な初等教育を終えていることが求められていることから、養成機関で看護訓練を習得することは容易ではなかったことが伺える。その当時、女性の教育率は低くこれら条件を満たすのは中流階級以上の女性であったと思われる。1870年代、80年代は教育を受けた中流階級の独身女性が経済的に自立して生きていくことがはじめて可能となった時代でもある¹³⁾。

次に、近代看護の創設期 (1872-1873年) に開校した3つの養成機関が各州でどのように運用されたのかを述べる。

1) ニューヨーク州の動向

ニューヨーク州では、1873年にニューヨーク州看護訓練学校 (N.Y. State School for Training Nurses) とベルビュー病院看護訓練学校が開校したのに次いで1875年には慈善病院訓練学校 (Charity Hospital Training School)、1877年にはニューヨーク病院訓練学校 (Training School of N.Y. Hospital)、1878年にはブルックリン病院 (Brooklyn Homeopathic Hospital)、1880年にはローチェスター市立病院 (Rochester City Hospital ;Training School for Nurses) 内に次々と学校が創設された。その結果、1890年には看護学校が67校になり、看護団体設立の1895年以降にさらに急増したことがわかる。初期に開校したこれらの学校は、入学条件が20歳から40歳であることや健康であること、人格が保証されていること、当時の女性としては上級な教育を受けた者であることが共通していた。しかし、修業年限や生徒の待遇は個々の学校により異なっていた。さらに、入学したが病気や不適任で退学したり、時には苦しい修業に耐えられず脱落したとの記載もあり、生徒の入学数と卒業生数の差がそれを裏付けている。卒業生は在宅看護や貧困者に対する地域看護、または病院の婦長や学校の教育者に

なるなど、自分で選択し就業していった。在学中の教育内容は病人用の調理やベッドメイキング、リネン交換、移動、体位変換、清拭、罨法、火傷・褥瘡・創部の包帯交換、浣腸など、患者の苦痛緩和や安楽に関する看護技術であった。

2) マサチューセッツ州の動向

マサチューセッツ州では、リチャーズの出身校であるニューイングランド婦人小児病院が1872年に開校後、1873年にボストン訓練学校、1878年にボストン市立病院看護訓練学校が開校した。その後、1894年まで6校と拡大は見られないが、ニューヨーク州と同様に1895年を契機に急増していった。この州では25歳から35歳を入学対象者とすることが記されていた。教育年限は1年半から2年であり、病棟の主任看護婦から病人の看護ケアの指導を受けていた。また、入学者数のうち医師へと進路変更する者、学業継続が困難で退学する者など、入学時の約3分の1の生徒しか卒業できていないとの報告もあった。

また、この当時、女性は主に他家の家事手伝いや事務職、店員の仕事に従事しており、都市に住む働く女性の平均賃金は男性の半分である5\$24¢/週であった。当時、生計を立てるには20\$/月以上が必要であると言われていた時代である¹³⁾。看護生徒は修業しながら10\$/月程度の給料を得ていた。

3) コネチカット州の動向

コネチカット州では、1873年にコネチカット看護訓練学校のみが10年程度継続され、その後の発展は余り見られなかった。各州で起こった看護学校創設の動きもコネチカット州では浸透せず、僅か8校に留まった。近接するマサチューセッツ州とは異なった推移を示している。コネチカット看護訓練学校の報告では、自立を望む若い女性に対して生計の手段を提供すること、病院内外の病人や貧困者を助けること、困難な状態にある家族に対する看護の訓練をすることの三点が設置目的に挙げられていた。さらに学校運営の目標は、看護職を天職とする生徒を訓練することであり、そのためには一度に訓練する生徒数は12人程度が限度であるとしていた。入学者は22歳から40歳として、健康であることや良好な性格を持ち合わせていることを条件にあげていた。そして、教育内容は医師への報告、体温・脈拍・呼吸の管理、薬物作用の把握、包帯交換、感染予防、疾患別の食物の準備とある。1877年の報告には、婦長1名には11人から14人の生徒が付き、看護ケアを訓練していることが記してあった。

以上、初期に看護養成機関が創設された3つの州を取り上げ、推移とその教育内容を明らかにしてきた。これらの州では入学生徒の条件や学習内容には共通性があるが、修

表2：米国看護養成機関一覧表；1879年

学校名 (Name)	場所 (Location)	法人組織日 (Date of incorporation)	開校日 (Date of organization)	校長 (superintendent)	監督者数 (No. of instructors)	生徒数 (Present number of pupils)	1879年卒業者数 (Graduation in 1879)	開校以来総生徒数 (Total No. of pupils since organization)	開校以来卒業生数 (Graduates since organization)	修業年数 (No. of years in full course of training)	年間修業週 (No. of weeks in scholastic year)	生徒への給料 (Salary paid pupils)	入学条件 (Conditions of admission)
コネチカット看護訓練学校 Connecticut Training School for Nurses	ニューヘブーン、コネチカット	1873	1878	Gertrude Barrett	2	14		116	40	1.5	50	18月に \$170	22-40歳、健康であり、良い性格、公立小学校教育修了
ボストン市立病院訓練学校 Boston City Hospital Training School for Nurses	ボストン、マサチューセッツ		1873	Alice C. Davis	16	42	17	79	19	2	52	1年目は月 \$10, 2年目は \$14, 主任は \$20-30 (卒後)	25-35歳の志願者が優先、もし他の良いところがあれば21-25歳でも入学可
ボストン訓練学校 Boston Training School for Nurses	ボストン、マサチューセッツ	1875	1873	J.E. Sangster		54	7	216	61	2	50	1年目は月 \$10, 2年目は \$14	25-35歳の志願者が優先
看護婦訓練学校 (ニューイングランド病院) Training School for Nurses	ボストン、マサチューセッツ	1863	1872	Ella G. O'Neill	1	17	6	67	41	1.5	50	6ヶ月は週 \$1, 次の6ヶ月は \$2, 最後の4ヶ月は \$3	21-35歳、16ヶ月の期限で取得可能な志願者
ミズーリ婦人小児助産婦学校 Missouri School Midwifery and Diseases of Women and Children	セントルイス、ミズーリ	1875	1875	William C. Richardson M.D. President	4	11	24	180	173	1	16	なし	なし
ニューヨーク州看護訓練学校 N.Y. State School for Training Nurses	ブルックリン、ニューヨーク	1873	1873	A.H. Wolhanpter	8	7	5	66	47	1	52	学校の完全なコースにいる間は賄い付き寄宿舎	21-40歳、社会性、一般的健康状態、読み書きの能力があり、1年間の勤務に同意できる
慈善病院訓練学校 Charity Hospital Training School	ニューヨーク、ニューヨーク		1875	Harriet L. Clute	g	40	28	120	57	2	52	1年目は月 \$10 2年目は \$15	20-35歳、健康であり性格が良く、英語教育修了
ニューヨーク看護訓練学校 (ペルビュー病院) N.Y. Training School for Nurses	ニューヨーク	1872	1873	E.P. Perkins	8	64	30		98	2	50	1年目は月 \$9 2年目は \$15	25-35歳の志願者が優先、性格、算数と読み書き、英語の書き取りができる
ニューヨーク病院訓練学校 Training School of N.Y. Hospital	ニューヨーク、ニューヨーク		1877	Eliza Waison Brown	4	26	14	52	14	1.5	52	最初の6ヶ月は \$10, 次の6ヶ月は \$13, 6ヶ月 \$16, 卒後 \$25	25-35歳、健康でセンスが良く、社会性と性格が良く、公立小学校教育修了
婦人病院看護婦訓練学校 Nurse Training School of the Woman's Hospital	フィラデルフィア、ペンシルバニア	1861	1863	Anna E. Bromall, M.D.		17	10	117	46	2	52	最初の6ヶ月 \$5, 次の6ヶ月 \$10, 2年目は \$16	21-45歳、理解力と良い性格であり、生活習慣を身につけていること
ワシントン訓練学校 Washington Training School for Nurses	ワシントン特別区	1877	1878	J.M. Toner, M.D. President	7	6		14		2	50	なし	21歳以下は不可、健康と社会性を身につけ、性格の保証を備えていること、公立小学校教育修了
Total					50	298	141	1027	596	19	526		

出典：“Statistics of training schools for nurses for 1879”より筆者ら作成

業年限や生徒の給料などの待遇、さらには教育者が病棟婦長や看護主任、病院医師など様々であった。ナイチンゲールは医師や他職種の手を借りずに看護婦の教育は看護婦自らが行うことや生徒が労働力とならないように病院からの財政的独立を図ることを理念としていたが、アメリカにおける看護教育システムは異なる様相を示していたことが明らかになった。

8. おわりに

本稿は、アメリカ近代看護の創始期において、教育分野が看護教育をどのように位置づけていたかの変遷を述べた。さらに、看護養成機関の成立過程を3州取り上げて明らかにした。今後の課題は、アメリカ教育局年報の1900年以降の分析を継続しアメリカ近代看護の成立から発展への過程を実証することにある。そのためには、近代のアメリカにおける女性史を背景にさらに考察を深める必要がある。そして、わが国への影響を近代看護から現代看護への歴史の流れの中で考察することである。多くの研究課題が残されたが、今後も一次史料を扱いながら歴史的事実を継続していきたい。

註：「看護婦」は日本では2002年に「看護師」に名称変更したが、本稿では近代当時の名称で記す。また、アメリカのNurseは「アメリカ看護婦」と訳す。本稿で述べた内容に関わったアメリカNurseは女性の看護者であることが判明しているので看護婦とする。

引用文献

- 1) Lucy Ridgely Seymer / 小玉香津子訳：General History of Nursing / 看護の歴史. 東京, 医学書院, 1978, p183-225
- 2) 慈恵看護教育百年史編集委員会編：慈恵看護教育百年史. 東京, 東京慈恵会, 1894, p21-28
- 3) 岡山寧子：同志社病院・京都看病婦学校ではじめられた看護教育. 京都府立医科大学誌119(2)：89-98, 2010
- 4) 亀山美知子：日本における看護婦養成の開始とミッションのかかわりについて. 日本看護歴史学会誌1：20-30, 1988
- 5) 橋本昭彦：アメリカ合衆国連邦政府教育省における政策評価の体制. 国立教育製作所紀要131：113-126, 2002
- 6) Linda Richards：How Trained Nursing Began in America; At The New England Hospital. The American Journal of Nursing. 1：88-89, 1900
- 7) 小池治：アメリカの教育改革とガバナンス. 横浜国際社会科学研究所16(1)：1-17, 2011
- 8) Althea t. Davis：America's First School of Nursing; The New England hospital for Women and Children. Journal of Nursing Education. 30(4)：158-161
- 9) 小野尚香：リンダ・リチャーズの人と思想(1); ニューイングランド婦人小児病院. 保健婦雑誌53(3)：232-235, 1997
- 10) Linda Richards：Reminiscences of Linda Richards-Amercia's First Trained Nurse-. Boston, Whitcomb and Barrows, 1991, p1-161
- 11) Isabel Maitland Stewart：The Education of Nurses; Chapter ,The Nightingale System is Established in America. New York, The Macmillan Company, 1943, p83-134
- 12) Sara M. Evans / 小檜山ルイ他訳：A History of Women in America / アメリカ女性の歴史, 東京, 明石書店, 2005, p199-284
- 13) 前掲12) p199-284